

ははだけ！
JTサンダーズ広島

竹田 英司

10月24日のホーム開幕戦は練習拠点である猫田記念体育館で開催され、感染症対策で普段は自宅通勤の選手も合宿所で寝泊まりした。

試合前日の深夜23時、携帯電話の着信音で私は跳ね起きた。画面には「唐川」の文字。「何かあったか」と聞くと、「寒くて眠れないので布団を貸してくれませんか」と一言。母が入院中の私は緊急事態でないことを知って脱力

「母役」へのお礼は勝利

した。
深夜の布団置き場は怖かったが、チームの母役としてはそんなことを言っていられない。唐川大志選手の部屋に布団を運ぶと「今度お礼します」と言われたので、「明日、勝ってくれたらそれでいい」と本音を伝えた。苦戦したものの、無事に翌日の試合で勝利を収めた。

その日の夜、今度は合田心平選手から電話があった。「試合の時に着ける黒いマスクが見当たらず……」と言われたので、「余分がないから、私の分を洗って使って」と言った。誰も気にしなかっただろうが、試合中に私だけがチーム特製の黒いマスクを着用していなかったのはこういう理由だ。

試合終了後には観客の皆さんに向かって写真撮影の時間があり、久原大輝選手がマイクを握って愉快に音頭を取って選手の笑顔を引き出した。シーズン終了まで選手と一緒に笑っていたい。

（JT広島マネジャー）

守備の要リベロとして開幕から好調の唐川選手

